

行田 歴史系譜 315

資料がかたる
行田の歴史 15

忍城下の剣術家・三田三五郎〜サムライになった百姓〜

三田家は、戦国時代には忍城主成田氏の家臣でしたが、江戸時代初めに持田村で土着すると、百姓として代々名主を勤めました。その三田家に宝暦2年(1752)に生をうけた人物が三田三五郎です。

現代の剣道のルーツにあたる撃剣という竹刀打ち込み稽古を好んだ三五郎はその技を磨き、埼玉郡清久村(現・久喜市)の神道無念流師範・戸賀崎知道軒に師事します。一説によると、三五郎は上野国高崎で数百人の門弟を抱える道場を開いていたともいわれます。寛政10年(1798)8月には、三五郎の門弟・大原伝七郎が西日本方面へ修行に出ています。西は久留米(現・福岡県久留米市)、南は佐土原(現・宮崎県宮崎市)に至



「大原伝七郎剣術修行帳」(当館蔵)

*肥後国八代城下(現・熊本県八代市)で立ち会った示現流の者の名前がみえます。



るまで、約1年にわたりさまざまな流派に触れた様子が伝七郎の「剣術修行帳」から分かります。

剣術師範・三田三五郎の名は時の忍藩主阿部正由の耳にも入り、寛政11年10月には阿部家家臣として三五郎は召し抱えられ、家中の剣術指南を勤めることとなります。三五郎は以後、江戸と忍両方の家臣団の稽古を任せられ、大勢の門弟を従えました。

文政6年(1823)三方領知替により阿部家が家臣団ともども白河(現・福島県白河市)へ移る際にも、三五郎はその一員として主君に付き従い、故郷の忍領を離れる決意をします。この時すでに三五郎は72歳でしたが、一度は百姓になったものの、再び三田家を武士として取り立ててくれた阿部家の恩に報いるため、忠節を貫き白河の地へ向かったのではないでしょうか。

(郷土博物館 澤村怜薫)

はじめまして



令和元年8月生まれのお子さんを募集します

- 6月1日(月)～30日(火)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、7月2日(木)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和元年6月生まれのおともだち



齋藤 詠巴ちゃん(荒木)
令和元年6月12日生まれ
父・博允さん 母・友子さん
「いろんなことを楽しんでね!」



安倍 七星ちゃん(天塚)
令和元年6月7日生まれ
父・拓哉さん 母・恵さん
「これからも『星』のように輝いてね!」



倉澤 たま実ちゃん(持田)
令和元年6月25日生まれ
父・善行さん 母・絢子さん
「たま実ちゃん、大大大スキッ!」



稲葉 陽香ちゃん(忍)
令和元年6月26日生まれ
父・隆治さん 母・智子さん
「陽香の事がみんな大好きだよ!」



榊原 涼真ちゃん(清水町)
令和元年6月6日生まれ
父・誠さん 母・恭子さん
「幸せを届けてくれて、ありがとう!」



浅見 優奈ちゃん(齋条)
令和元年6月7日生まれ
父・純一さん 母・有加さん
「優しく健やかに育ってね!」

今月の表紙

市内の保育園では、新型コロナウイルス感染症を防ぐための対策が講じられています。

持田保育園では、1日2回の検温を実施し、午睡時には布団の間隔を空けるなど日常生活での感染予防を徹底。また、戸外遊び後は、ハンドソープを使って手の甲や爪、指の間など洗い残しのないよう時間をかけてしっかりと洗っています。食事前には、手洗いの他、欠かさず消毒もしています。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ
市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています